

小学校受験に於ける父親の役割

アリスこどもスクール代表 野笹 玲子

近年、私立小学校を志望するご家庭が急激に増加しています。それは授業時数や学習内容の削減による公立小学校の学力低下への不安と、少子化が進み子供一人に対する教育費の増大に伴い、我が子により良い教育環境を選択してあげたいという親の願いの表れであるとも言えるでしょう。

〈小学校受験に臨むために〉

小学校受験準備の第一歩としては、まず学区域の公立小学校の実態も知ることです。「失敗したら公立へ」というスタートは危険です。では、公立と私立の違いは何なのでしょう。私立小では各々に教育の理念や目標をしっかりと掲げ、それに添って専科制・教科担任制といった指導体制を導入し、独自のカリキュラムを作成したり、宿泊を含む体験学習を重視するなどの各学校が特色ある教育活動を実践しています。実際に学校に伺い、ご両親の考えと一致する学校を選ぶことが大切です。もちろん経済的な負担や通学に伴う時間と体力面のデメリットもしっかりと考え、両親の相意の上でお子様に合った準備と、正確な情報を提供してくれる信頼できる教室選びをすることをお勧めします。

〈家族の役割〉

最近では、お父様からのご相談が増え喜ばしく思いますが「父親がどれだけ子育てにかかわっているのか」ということも小学校受験の大切な要素なのです。面接に於ける父親への最も頻度の高い質問のひとつに「お子さんとはどのようにして接していますか？」というのがあります。仕事に忙しいお父さん達がいかに努力をして子供とのかかわりを大切にしているかを知ろうとしています。それは、小学校入学後も、学校や母親だけに任せずに、協力してくれる父親かどうかを見極める為でしょう。子供たちはお父さんと遊ぶのが大好きです。ただし、受験の為の、ボールつきやケンパーばかりでは、子供は遊んでもらったとは思っていません。やはり義務感だけでは、子供の心は豊かにならないのです。まず子供の要求に応えてやり、その上で「お父さんは〇〇して遊びたいけれど一緒に遊んでくれるかなあ？」ともっていけば、「うん、いいよ」と子供は、満面の微笑で答えてくれるはず。年長生になると母親では体力的に、子供の要求を十分に満たしてやれなくなってきました。そこで、お父さんの出番。身体をたくさん使って遊ぶことは脳の活性化や言語力にも大きく関わってきます。そして、精神力や忍耐力も養われ、お父さんの愛情を肌で感じることで子供の情緒が安定し、表情も明るくなります。お父さんのサポートは子供だけでなく母親の精神状態にも大きく影響しており、受験はもとより家庭円満の秘訣です。合格のカギはもしかしたらお父さんが握っているのかもしれない。

〈家庭が基本〉

小学校受験で見られているものは、子供の能力や性格はもとより、その子が成育してきた環境や親がどういう考えで子供を育ててきたかという点も重視されます。つまり子供を通してその家庭や両親を見られる試験なのです。これが「親子の受験」といわれる所以であり、中学・高校受験と大きく異なる点です。つまり小学校受験は家庭が基本なのです。

今、一生懸命に子育てをしているお父さんお母さんに、是非ともお願いしたいことは、子供自身が、自分はお父さんお母さんに心から愛されているんだ、といつも実感できるようにしてあげて欲しい。ということ。それは、物ではなく言葉できちんと、しっかりと伝えて欲しい。

我が子の心に、その生き方を教え、残してあげたい。私も親として、そう願っています。その存在の確かさが、何よりも心強い支えとなるような、そんな親であり続けたいと。我が子を信じてあげることの方が、叱咤激励することより、どれ程子供を自立させ、思慮深く導くことか知りません。子供の為を想うあまり、先へ先へと転ばぬ先の杖を突き過ぎてはいないでしょうか。たとえ、転んで怪我をしたとしても、そんなことをすれば怪我をするということを知ることでも必要であり、痛さを知ることでも大切なのです。そうすれば、大きな怪我はしないだろうし、相手を傷つけることもないでしょう。手を貸して助けてやることだけが、親の愛ではありません。子供自身が自分で悩んだり考えて選択し、その結果をしっかりと受け止めて歩き出す力を、少し離れて見守る勇気を持つことも、時には必要なのだと思います。そうやって、社会の中で人と和して生きていく力を、この幼児期から育てていくことこそが教育なのではないだろうか。子供にとって、両親は、その行く手に輝く道しるべ。遙か遠い将来をもしっかりと見据えて、どの道を進むべきなのかを見極め、判断し、その為の最良の環境を選択してあげるのが親の務めであるならば、教師は、親子が暗がりでも迷わぬように、もしも迷ったならば、その足元を明るく照らす、一筋の光でありたい。時には、強く頼もしい光で導き、そしてまた、時には、温かくやわらかな光で包む。

今、私は、そんな教師であり続けたいと願っております。